



平成 29 年 3 月 1 日 第 6 巻 (第 11 号)

発行：東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

## もくじ

1. 巻頭言 〈 6年目を送る 〉
2. 経験と繋がりを糧に
3. 活動報告書
4. 災害支援チームからのお知らせ
5. 災害支援ニュース発行のお知らせ
6. あとがき

## 石巻現地職員を募集しています！！

詳細は協会ホームページ「石巻・現地職員募集中」からご覧ください。

## 石巻市応急仮設住宅現況報告

(石巻市 平成 29 年 2 月 1 日現在 応急仮設住宅一覧より抜粋)

応急仮設住宅入居状況 (応急仮設住宅集約化進行中)

入居戸数 2,430 戸

入居人数 5,233 人

1. 巻頭言 < 6年目を送る >

災害支援チーム

石巻現地責任者 福井 康江



弥生、早春の候。

ここ東北でも、やはり春は光からというように、まだまだ冷たい風の中でも日差しの温かさが日に日に増していることを感じています。また、震災から6年が経ち、今年はどんな春を迎える事ができるのか、不安と期待の両方を抱えていることは否めません。

さて、平成25年7月より活動を行って参りましたが、「男のあそぼう会」ですが、この3月を以って一度活動を“卒業”とする、ことをご報告いたします。数ヶ月に渡り、スタッフ間で話し合いを続けて参りましたが、その時が来たことを共有いたしました。今後は新しい関わりの形を模索することになりますが、これからもこの土地で生きていく生活者への支援となることを違えずに、私たちもまた次に向かって行きたいと思っています。

次回又、ご報告させていただきますが、一度ここで御礼申し上げたいと思います。

宮城県医療ソーシャルワーカー協会の皆さま、  
ご支援くださいました沢山の皆様、  
ありがとうございました。  
感謝。



## 2. 経験と繋がりを糧に

### 災害支援チーム

石巻現地担当 金崎 慶大



石巻で迎える初めての冬。冷たい風、雪、湿度などなど西日本とは違う気候に体調を崩すこともあり、昨年健康診断で注意され目標としている体重減少を期待しましたが、寒い分温かい食事が美味しく現状維持で新年を迎えました。今年は“健康的に痩せる”を目標に活動したいと思います。皆様、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今回は石巻市小船越で造成が進む集団移転地「二子団地」に関わるお話を少ししたいと思います。二子団地は、震災前、河北・雄勝・北上地区に暮らしていた方々のための防災集団移転地となっています。現在、復興公営住宅と自力再建を合わせて、約400世帯が移転を希望されており、私が関わっている住民の中にも移転希望の方達があります。その中で出会った一人の女性が経験し、今、何を思い仮設で生活しているのか、そして、移転にどう向き合っているのかを紹介させていただきます。



### 《 80代女性が今思うこと 》

Ｙさんと初めてお会いしたのは、仮設集約移転（※集約移転の内容は、2016年9月12日災害支援ニュースをご覧ください）の説明会の時でした。説明会のある集会場に入って来たときのＹさんの表情は不安げで何かを訴えたいような目をしていました。説明会も終盤に近づき質疑応答の時間になった時、Ｙさんから質問がありました。「今の仮設から移らないといけないことは分かった。でも移る予定の二子団地にはいつ行けるのか私は知らない。来年なのか再来年なのか。住み慣れた仮設から違う仮設に移ってまた、引っ越しするなんて年寄りには難しい。このまま二子団地に移るまで今の仮設に居られないのか。」と、市の職員に向けて不安そうな表情ではありましたが、しっかりと口調で訴えていました。市の職員からは、集約移転の必要性や負担を少しでも減らして移動して頂くことなどの説明があり、その場ではＹさんもそれ以上語ることはありませんでした。数日後、仮設集約場所の希望調査のためにＹさんのご自宅へ訪問することとなりました。ご自宅は、2DKのお部屋で日当たりもよく物は多いようでしたが、整理整頓されており、温かみのあるお部屋になっていました。集約説明会の時に面識があったので快く調査にも対応してくれました。集約説明会の時に話されていたことについて気になっていた私は、仮設での生活や今後の事について話しを

聞くことにしました。すると Y さんから震災前後、仮設での生活、家族、支援者との繋がり、二子団地に戻ることなど多くの話を聞くことができました。

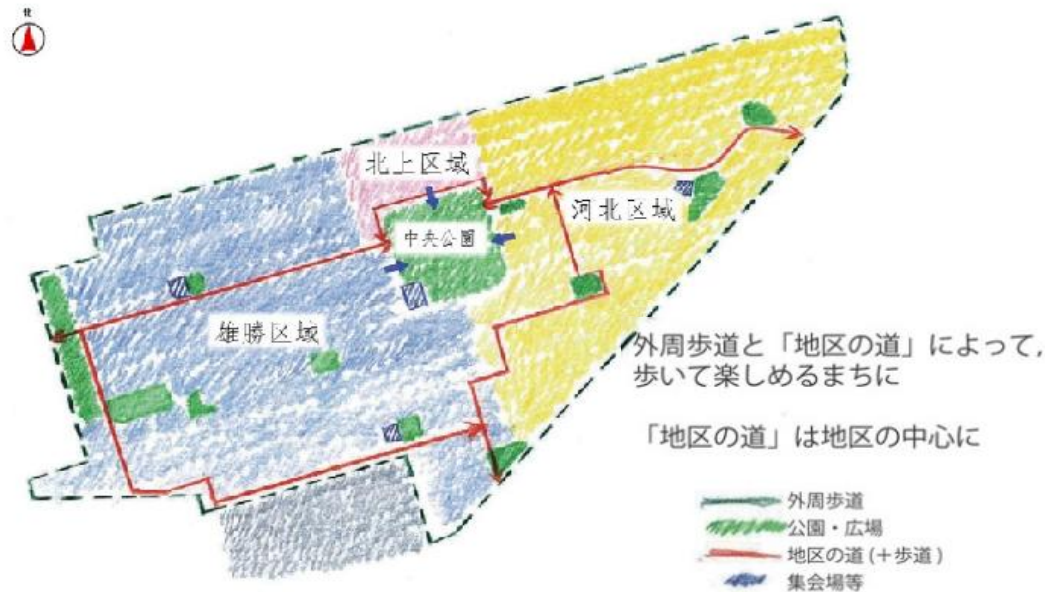
Y さんには 6 人の子どもと 13 人の孫、ひ孫がいます。雄勝で生まれ育った Y さんにとって住み慣れた町から離れることは考えもしていませんでした。しかし、東日本大震災で家を失い、家族ともばらばらになりました。被災後は、仙台市にいる息子さんの自宅へ避難していましたが、そこで一生分の涙を流したと言います。Y さんにとって環境の変化は今まで経験したことのない苦痛と我慢だったのです。その後、現在の仮設住宅に一人で移り生活自体は安定しました。しかし、ここから孤独と向き合う生活が始まりました。元々生活していた地区でない仮設のため、外出もせず家に閉じこもり家族もそれぞれの生活に追われ一人で過ごす毎日でした。そんな Y さんを救ってくれたのが外部支援（ボランティア等）との関わりでした。毎日、様子を見に訪問してくれ、時には話を数時間聞いてくれる支援者の存在は Y さんにとって大きかったようです。その中で信用していた人に裏切られるという忘れられない経験もあったと話してくれました。Y さんは、震災を経験するまで“頑張る”“我慢する”ということをはほとんどしてこなかったと言います。震災後に初めて経験する“頑張る”“我慢する”が辛く感じ孤独になったことも多かったようです。しかし、その分家族や周りの人に感謝できるようになったとも言います。「この歳になって新しいことを学び経験するなんて思わなかった。今は、たくさんのことに感謝できる自分がいる。でも新しいことへの不安がないわけではない。寧ろ不安の方が大きい。仮設を移動することも二子団地に移ることも。けど、家族もいるしこうやって助けてくれる人もいるからきっと大丈夫。」と、最後に素敵な笑顔で話してくれました。「また寄らいん」と手を振って送り出してくれた Y さんの姿が優しくどこか淋しそうに見えたことが今でも印象的です。

二子団地への移転開始は平成 30 年度から始まる予定となっています。Y さんは、自身が経験し、置かれている状況を受入れ、移転に向けて変わる環境に向き合おうとしています。不安や孤独で押しつぶされそうになることもきっとある Y さんを支えているのは被災後の経験と繋がりだと感じました。家族との繋がり、地域とのつながり、支援者との繋がり、多くの繋がり Y さんを支えています。その繋がりを強いものにしたのは被災後の経験です。Y さんからお聞きした話で “移り変わる” ことの重さ、そこに関わるときの慎重な対応が今後の支援には必要だと改めて考えさせられました。

石巻市では、復興住宅の建設、仮設集約移転、土地開発など目まぐるしく変化しています。変化を余儀なくされている状況に振り回される支援ではなく、変化を感じながら何を尊重すべきかを見失わないよう住民さんと共に考える時間を持ちたいと思います。住民さんとの関わりの中では教えて頂くことや学ぶことばかりで、今年こそは何か学びのお返しができればと密かに意気込みながら地域を回っています。

Yさんは、自身の経験を伝えることで石巻の現状に関心を寄せて欲しいと言います。同じような思いで生活している人にも伝えたいことがあるとも仰っており、宮城のテレビニュースに出演したりして自身の経験を発信しています。今回の記事の内容についてもご本人さまにご了承いただきました。

私自身もYさんからたくさんのパワーをもらいました。ありがとうございました。



.....

### 3. 活動報告書

.....

#### 2017年1月、2月 と連続しての「男のあそぼう会」支援報告

.....

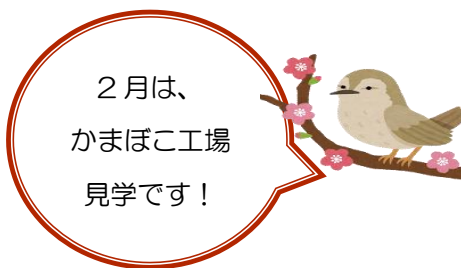
総合南東北病院  
宮城県 菊地 知憲

.....

活動期間：2017年1月18日

今回は現地支援員の金崎さんの出身である香川県の讃岐うどんを作って食べる予定でした

が、主である金崎さんが体調不良でお休みのため、讃岐うどんに関するお話はきけませんでした。うどんなので、あまり手間がかからないため、ゆっくり話をしながら、穏やかな雰囲気で作って料理を作り、かまぼけうどんを食べました。のどごし、食感も良く皆さん喜んで食べておりました。非常に良い雰囲気では進みましたが、福井さんより、3月で日本協会の支援が終了すること告げられると参加者はがっかりした様子でありながらも、終了は致し方がないということを感じているようでした。入院で参加できない、転居で参加出来ない方もおり、今回参加者でも、手術を控えている方、要支援認定に該当しそうな方もおり、安全に会を運営することも困難な場面もみられていたのは事実であるため、今後、男のあそぼう会が継続していけるのかは、次回以降話し合いを行うことになりました。男のあそぼう会のようなグループワーク、サロン活動に一部関わらせていただき、目的、継続性の難しさを改めて実感しました。



.....

活動期間：2017年2月15日

今回は石巻の名産品であるかまぼこの代表的なお店の白謙の生産工場を見学しました。工場は石巻工業港のすぐ近くにあり、甚大な被害を受けました。DVD を観た後に従業員の方から説明を受けました。従業員で犠牲者はおられなかったこと、復興までの困難な道のりを教えていただきましたが、それを感じさせない程、とてもきれいな工場でした。見学終了後に直売店でかまぼこを購入し、記念撮影をしました。その後、日本協会の事務所でお弁当を食べながら、今後の男のあそぼう会の運営に関して協議しました。何らかのかたちで続けていきたいという気持ちを持たれている方が多いようでした。皆さんのやり取りを聞いていると、各自の名前など曖昧にしか覚えていませんが、男のあそぼう会自体が参加者の居場所になっていることを実感しました。男性は上手く人との関わり、居場所を築けないまま年を重ねていくから、居場所を作ることが必要であるということが本会の設立の目的でしたが、居場所ができたのにそれを今後どうしていくかという非常に難しい問題に直面しています。継続というのはとても大変なことなのだと改めて実感しました。

.....

## 4. 災害支援チームからのお知らせ

### 【1. 大切なお知らせ】

11月8日災害支援チーム会議において

**協力員募集終了**

と決まりました

2011年3月11日の発災以来6年間にわたり

石巻をはじめ、近隣の被災地において

ご支援ご協力をいただきましたみなさま

心より感謝申し上げます

### 【2. 災害支援チーム会議開催のお知らせ】

次回会議日程（2016年度 最終会議）

日程：3月7日

時間：19:00~21:00

場所：協会会議室

### 【3. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、  
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、  
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』の

販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅡ』に、



2013年1月から2014年3月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

尚、売上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ:URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=45](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45)

バトンⅡ:URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=47](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47)

バトンⅢ:URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=54](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54)

#### 【4. facebook】



facebookでも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

#### 【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんがVTRにまとめて下さいました。YouTubeにアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシ





「ヤルワーカー災害支援」で  
検索すると見つかります。

URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>



## 5. 災害支援ニュース発行のお知らせ



次回発行予定 3月下旬

## 6. あとがき



災害支援チーム事務局から

編集担当 菊田

現地責任者の福井からも報告があったように、平成 25 年 7 月 22 日に始まった、『男のあそぼう会』が平成 29 年 3 月 15 日を持って終了することになりました。これまで宮城県協会をはじめ多くの協力員さんの力を借りて活動してきました。私からも感謝申し上げます。

男のあそぼう会が終了することを参加メンバーへ伝えた時に「寂しくなる」「誰に話を聞いてもらえばいいのか？」との言葉を聞き、このあそぼう会が一つのコミュニティとして位置付けられていたのだと改めて強く感じる事が出来ました。それは、これまでこの活動に従事してきた新旧現地職員やその時々の協力員の方々の力があってこそだと思いました。

今回の「男のあそぼう会」終了を迎えることで、支援機関が参加メンバーとともに育ててきたコミュニティを解体し、その参加メンバーを別のコミュニティへ繋いでいくことの困難さを痛く実感しました。

男のあそぼう会の活動を通じて、宮城県内・石巻市内の病院で MSW として働く方や、MSW を目指している実習生さんとの出会いがありました。住民さんから聞いてきた宮城県や石巻市の話とは違う視点で協力員さんから話も聞くことが出来ました。

平成 28 年 5 月からの参加ではありましたが、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

ありがとうございました。



東日本大震災 MSW 災害支援ニュース  
平成 29 年 3 月 1 日第 6 巻 (第 11 号)  
作成 日本医療社会福祉協会  
災害支援チーム事務局